

第1章 愛知県の景観特性

ここでは、愛知県のあらましとともに、県の景観特性を「自然」「歴史」「生活」「産業」別に整理しています。

1. 愛知県のあらまし

(1) 位置

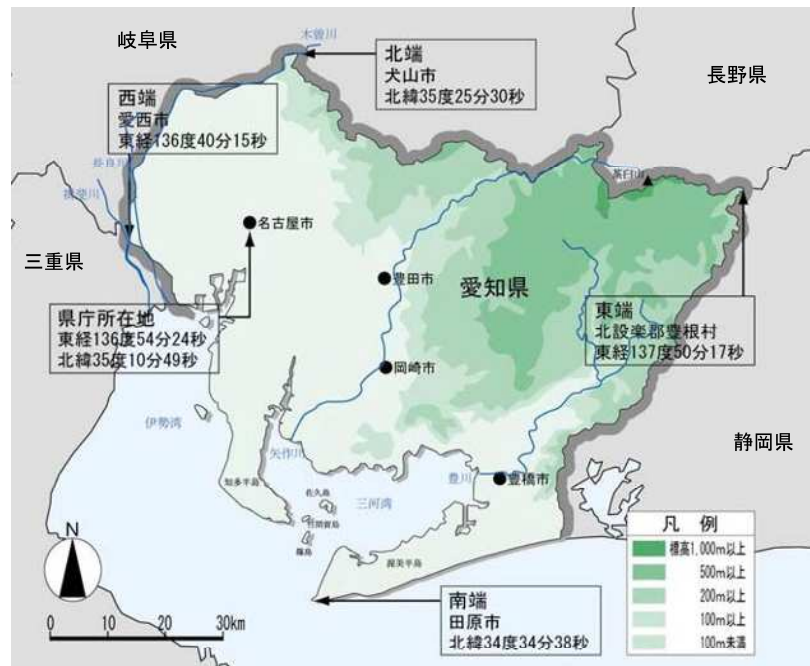


図2 愛知県の位置

(2) 面積

愛知県は、東西 106km、南北 94km、面積は 5,158km²で、国土の約 1.4%を占め、全国で 27 番目の広さです。また延長 595km の海岸線を有しています。

(3) 人口

愛知県の人口は 726 万 623 人(平成 18 年 1 月 1 月現在)で、東京都、大阪府、神奈川県に次いで全国第 4 位です。

年齢別に見ると、第 1 次ベビーブーム期(昭和 22~24 年生まれ)と第 2 次ベビーブーム期(昭和 46~49 年生まれ)あたりの世代が特に多くなっています。また、65 歳以上の割合は、16.85%(平成 17 年 4 月 1 日現在)となり、全国平均の 19.72%(平成 17 年 3 月 31 日現在)より低くなっています。

(4) 産業

愛知県の県内総生産は 33 兆 6,559 億円で、東京都、大阪府に次いで全国第 3 位です。(あいちの県民経済計算：平成 13 年度)

産業別では、サービス業等の第三次産業が過半数を占め、製造業と建設業をあわせた第二次産業が約 4 割を占めています。

また、製造品出荷額等は、26 年連続日本一です。(工業統計調査結果：平成 14 年)

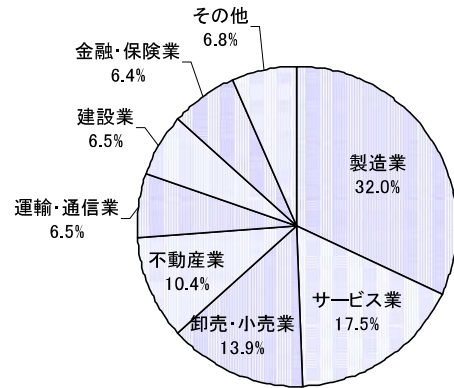


図 3 愛知県の生産額の構成
県企画振興部統計課
「あいちの県民経済計算(平成 13 年度)」

(5) 土地利用

愛知県は、都市的土地利用の進んだ地域ですが、森林と農用地の合計が占める割合は、東京都(39.9%)、大阪府(38.5%)、愛知県(59.1%)で、三大都市圏で最も高く、比較的緑豊かな県です。(各都道府県調査結果：平成 16 年度)

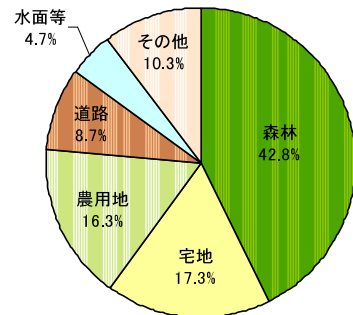


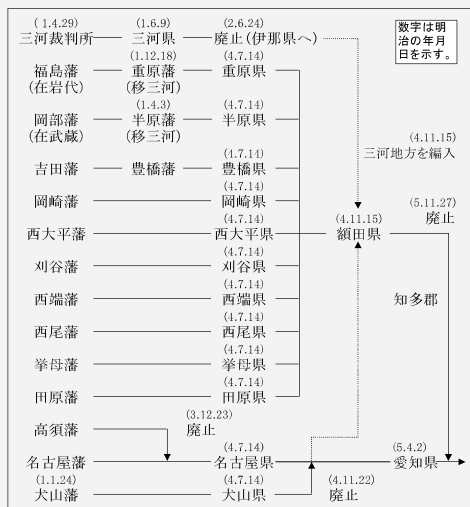
図 4 愛知県の地目別土地利用
県企画振興部土地水資源課
「土地に関する統計年報(平成 16 年度)」

■コラム <愛知県の成立>■

古代において、愛知県は、尾張国(木曾川・庄内川地方)、三河国(西三河の矢作川地方)、徳国(東三河の豊川地方)の 3 国に分かれていましたが、西暦 645 年の大化の改新後、尾張、三河の 2 国となり、江戸時代まで約 200 年間その状態が続きました。

明治 4 年の廃藩置県の後、それまでの 2 国に代わり名古屋県、豊橋県等の 12 県が置かれ、明治 5 年 4 月に名古屋県は愛知県と改められ、同年 11 月 27 日には額田県を廃して愛知県の管轄に移し、永く続いた尾張国、三河国は、愛知県の名のもと、1 つに統合されました。

明治 22 年に市町村制、同 24 年には郡制、昭和 28 年に町村合併促進法が施行され、昭和 31 年年までには、それまでの 13 市 204 町村が、21 市 90 町村となりました。さらに今日の「平成の大合併」により、平成 18 年 2 月 1 日現在、県内の市町村は 33 市 29 町 3 村となっています。



愛知県の成立 出典「愛知県の歴史(山川出版社)」

2. 景観特性

ここでは、景観法の基本理念や先述した「新しい7つの視点」に留意しながら、愛知県の景観を「自然」「歴史」「生活」「産業」の4つに分類し、それぞれの景観特性について整理を行っています。

(1)自然	(2)歴史	(3)生活	(4)産業
①地形	①街道・まちなみ	①新しく形成された街	①交通
②水系	②遺産	②昔ながらのまち	②工商業
③植生		③身近な文化	

(1) 自然

① 地形

愛知県は、県東部の三河山地、県西部の濃尾平野、尾張丘陵に代表される丘陵地、知多半島と渥美半島の2つの半島等で構成されています。(図2参照)

○山地は木曾山脈の南縁にあたる県東部の三河山地が主なものです。岐阜県、長野県境から三河湾に向かってなだらかに傾斜しています。県内最高峰は、長野県境に位置する茶臼山(1,415m)です。

○平野部は県西部の木曾川や庄内川中下流域に発達する濃尾平野、県中央部の矢作川西岸下流域の岡崎平野、県東部の豊川河口部の豊橋平野等があり、いずれも河川の運搬土砂が堆積した低地となっています。

○丘陵地は県北部から尾張丘陵、さらに知多半島までの地域に分布し、比較的起伏が少なく一定の高さで連なっていることが特徴です。

○知多半島は太平洋に向けて南北に伸びる幅5～12km、長さ約25kmに及ぶ地域で、先端部には海蝕崖が見られます。一方、渥美半島は東西に伸びる幅5～9km、長さ約40kmに及ぶ丘陵性の洪積台地により形成されています。



□三河の山（設楽町）



□平地と丘陵地（尾張旭市）

【問題点】

失われようとしている自然の地形

□土石採取や宅地開発等が行われた一部地域では、大規模な造成工事等に伴って自然の地形が改変され、これまで見ることができた緑豊かな美しい自然景観が失われようとしています。

②水系

- 愛知県の水系には、木曾川や矢作川を代表とする河川
 の他、水や電力の供給のためにつくられた人工湖、農業
 用水用のため池、太平洋に面した海岸等があげられます。
- 岐阜県との県境の木曾川、名古屋市付近の庄内川、西三
 河の矢作川、東三河の豊川が代表的な河川です。
 - また中小河川では、都市を貫流する都市河川、流域に山
 地を持たず海拔ゼロメートル以下を流れる河川や、知多
 半島、渥美半島に見られるような急勾配で河川延長の極
 端に短い河川等、地域によりその性格が大
 きく異なった河川が多数あります。
 - 尾張丘陵や豊田台地を流域とする境川は、
 昔より尾張国と三河国の国境であった歴史
 を有するなど、水系としての位置づけに加
 え歴史的な要素を備えています。
 - 人工湖は三河山間部に多く、代表的なもの
 として三河湖、鳳来湖等があります。
 - ため池は、尾張丘陵や知多半島、渥美半島
 等、県内に広範に分布し、入鹿池、佐布里
 池が代表にあげられます。また天然湖沼は、
 油ヶ淵が県内唯一のものです。
 - 海岸は、遠州灘、三河湾、伊勢湾の沿岸か
 らなり、海岸線の総延長は約 595km に及び
 ます。特に遠州灘海岸は美しい砂浜海岸が
 約 40km に渡り連続しています。
 - ラムサール条約登録湿地である藤前干潟や
 汐川干潟等、内湾河口の干潟は、野鳥飛来
 地として多様な生物の生息空間となってい
 ます。



□木曾川（愛西市）



□三河湖（豊田市）



□恋路ヶ浜（田原市）

【問題点】

自然景観に調和しない人工物の増加

- 海岸に設置された消波ブロックや河川等に整備されたコンクリート護岸は、これまで機能優先で整備されてきたため、自然景観と調和していない場合が見られます。
- ごみ等の不法投棄や水質汚濁等により、貴重な自然が破壊されつつある場所が見られます。

減っていく自然環境豊かなため池

- 都市化の進展や農業用水の整備等により、地域の魅力的な景観資源であり、豊かな自然環境の保全に役立っていたため池が減少しています。

③植生

愛知県の植生は、大部分が暖帯性常緑広葉樹林からなるヤブツバキクラス域[※]に属し、標高の高い奥三河の一部が温帯性落葉広葉樹林からなるブナクラス域[※]に属します。ただし、自然林は少なく、二次林やスギ・ヒノキの人工林が多くを占めます。

その他、太平洋を望む海岸植生、また多くの湿地とため池に成立する水生植物群落等、特徴的な植生があります。

- 県土の約 43%を占める森林のうち、スギ・ヒノキ等の人工林は約 64%を占め、森林の大部分を形成しています。
- 山林の一部地域には自然林も見られます。特に豊川の源流部に広がる「きららの森(段戸裏谷原生林)」は、総面積 130ha のブナ原生林で、貴重な植生となっています。
- また、三河山地の西麓の瀬戸市、長久手町、豊田市、岡崎市、幡豆町、知多半島等に分布する里山の緑が、都市部の背景として景観上、大きな特徴となっています。
- 一方で、葦毛湿原(いもうしつげん)に代表される湿地やため池に成立する水生植物群落、とりわけ湿地を中心として成育する東海丘陵要素植物[※]と呼ばれる特色ある植物種の分布も愛知県の植生の特徴です。



□三河の森林（豊根村）



□里山（瀬戸市）



□葦毛湿原（豊橋市）

※ヤブツバキクラス域：植物社会学上の分類で、暖温帯の、雨量に恵まれた地域を生育植生とするヤブツバキ、アラカシ、シラカシ、ヒサカキ等の常緑広葉樹が優占するこれらの樹林(照葉樹林帯)のことをいう。
 ※ブナクラス域：植物社会学上の分類で、冷温帯域を生育植生帯とするブナ、コナラ、アベマキ、カエデ類、コシアブラ、オオカメノキ等の落葉広葉樹が優占するこれらの樹林(冷温帯落葉広葉樹林帯)のことをいう。
 ※東海丘陵要素植物：周伊勢湾地域に発達している特異な低湿地を中心として生育する固有、準固有または隔離分類群のことをいう。
 なお、周伊勢湾地域とは、愛知県を中心に、三重県から静岡県等伊勢湾をとりまく地域のことです。この地域で発生分化したものと考えられる植物には、シデコブシ、ヒトツバタゴ、シラタマホシクサ、スズカカンアオイ等があげられる。

【問題点】

手入れが行き届かない山林・里山の増加

□長引く木材価格の低迷、山間地域の過疎化、林業就業者の高齢化等により、間伐・枝打ち等の森林施業が行われない人工林が増え、山林の姿が変わってきています。また人との関わりが少なくなり放置されている里山では、固有の豊かな生態系や景観が失われつつあります。

開発により減少する平地林や斜面林

□土地の高度利用が進む市街地や、宅地開発等が進む郊外では、まちにゆとりや潤いをもたらしている貴重な平地林や斜面林が徐々に減少しています。



□玉野川・蜂屋大岩から橋ヶ瀬（春日井市）

資料：目で見える愛知の江戸時代(国書刊行会編)
 原典：尾張名所図会(愛知教育大学付属図書館蔵)

(2) 歴史

① 街道・まちなみ

古来より東西交通の要衝として栄えてきた愛知県では、多くの宿場町が整備されました。またその他にも城下町や門前町等のまちなみができ、現在でも、その面影を一部で見ることができます。

- 県内 9 箇所（二川、吉田、御油、赤坂、藤川、岡崎、池鯉鮒、鳴海、宮）に設けられた旧東海道の宿場町や、吉田から新城や田口に伸びる伊那街道、足助を通る中馬街道、東海道の脇街道として整備された姫街道や佐屋街道等には、街道の松並木や歴史的な建築物が残るなど、各地で当時の面影を垣間見ることができます。
- また、大名や領主等により数多くの城が築城され、各地には城下町が整備されました。犬山市、岡崎市、名古屋市等、その多くが現在も地域の経済や文化を支える中心的な市街地となっています。
- さらに、一宮真清田神社、熱田神宮、豊川稲荷、大須観音等の由緒ある社寺の門前にできた、いわゆる鳥居前町や門前町も各所で栄え、今なお賑わいを見せているところが多数あります。



□ 赤坂宿（音羽町）



□ 中馬街道の脇道（豊田市）

【問題点】

連続性が途切れ魅力が半減する歴史的なまちなみ

- 歴史的な趣が残るまちなみで、その一部が、周囲と調和しない規模や様式の建築物に建て替わることにより、連担した歴史的な趣や美しさが無くなりつつあります。

歴史的な趣を阻害する派手な屋外広告物や自動販売機等

- 歴史的な趣の残る建築物の前面に設置された派手な屋外広告物や自動販売機等が、まちなみの魅力を損ねている場合が見られます。

②遺産

愛知県は、古代よりこの地方の政治の中心であったことを示す古墳が、多数残されています。

中世や近世では、源頼朝や、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康等の武将を多数輩出した地域であることから、武将たちゆかりの神社、寺院、城(城址)、古戦場跡等を各地で見ることができます。

また、近代以降(明治以降)の遺産としては、当時の技術による産業や土木等に関する「近代化遺産」を各地で多数見ることができます。

○断夫山古墳や八幡山古墳(いずれも名古屋市)をはじめとする多数の古墳が、尾張国、三河国、徳国の3国を中心に残り、現在、古墳およびその周辺は、公園として整備されたり、緑の木々に覆われたりするなど、地域に潤いと安らぎを与えています。

○古代から中世にかけてやきものが盛んになり、古窯群として猿投、尾北、瀬戸、常滑があります。また、三河国分寺や三河国分尼寺が奈良時代に建立されたものとして、その跡を今に残しています。

○中世や近世において活躍した武将等による代表的な遺産として、国宝犬山城をはじめ、名古屋城、岡崎城、吉田城、小牧山城等、100以上の城や城址等があげられます。しかしその多くが、土塁や石垣等の遺構が僅かに残る程度になっています。

○また、武将ゆかりの寺院をはじめ、三種の神器の一つである「草薙剣」(くさなぎのつるぎ)が祀られている熱田神宮に代表される由緒正しい神社も数多く分布しています。多くの神社・寺院には、鎮守の森が見られ、緑の特徴的な景観を呈しています。

○近代以降(明治以降)の遺産として多数見られる「近代化遺産」には、土木技師のヨハ



□国宝犬山城(犬山市)



□松平郷(豊田市)



□船頭平閘門(愛西市)



□八幡山古墳(名古屋市)

ネス・デ・レーケ※、アメリゴ・ホフマン※等による砂防工事や、それと一体となった造林、さらには西三河一帯の約6,000haを灌漑する我が国有数の大規模農業用水である明治用水等をあげることができます。こうした「近代化遺産」の多くは、現在の愛知の産業はもちろんのこと、県民の安全・安心、快適な暮らしを支える上で重要な資源として捉えることができます。

○県内には、国宝や国・県指定の有形文化財等が多数あり、地域の歴史や伝統等を今に伝え残しています。

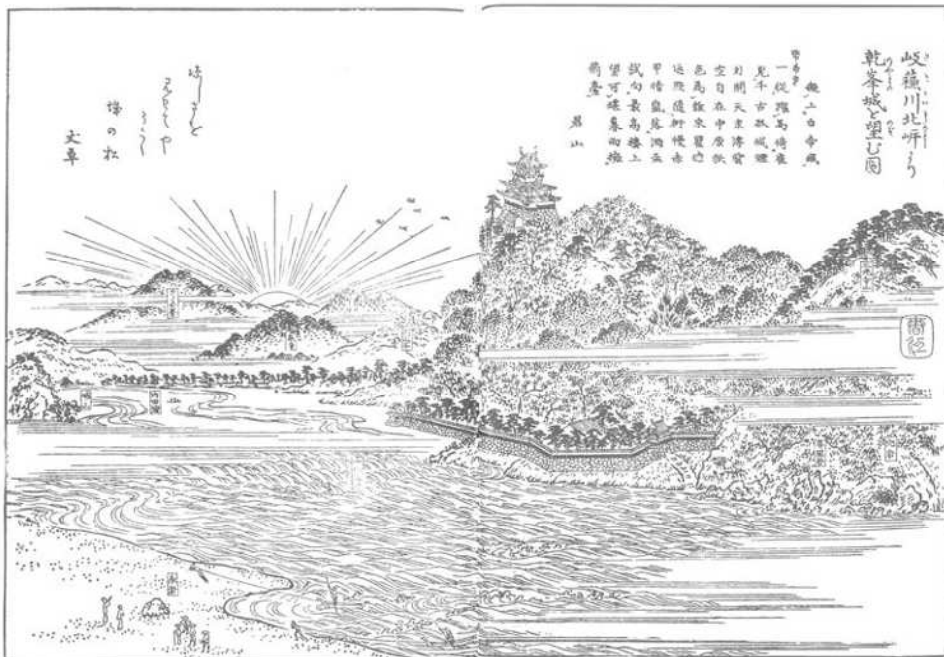
※ヨハネス・デ・レーケ：明治政府に招かれて明治6年(1873年)に来日したオランダ人技師。その後約30年間、日本に滞在し、木曾三川分流工事をはじめ、多くの河川・港湾の設計や工事の指導をした。

※アメリゴ・ホフマン：明治37年(1904年)、東京帝国大学の砂防講座主任教授として来日した土木技師。

【問題点】

歴史的遺産の周囲での景観破壊

□貴重な歴史的遺産が、その周囲の開発等により覆い隠されてしまう場合があります。



□岐蘇川(木曾川)北岸より乾峯城(犬山城)を望む(犬山市) 資料：目で見える愛知の江戸時代(国書刊行会編) 原典：尾張名所図会(愛知教育大学付属図書館蔵)

(3) 生活

① 新しく形成された街

丘陵地等で行われることの多いニュータウン開発や、既成市街地で実施される市街地再開発事業や土地区画整理事業等では、短期間のうちに、都市施設等が充実した新しい市街地が形成されます。

○名古屋市のベッドタウンとして宅地開発された高蔵寺ニュータウンや桃花台ニュータウンは、比較的ゆとりのある敷地面積を有した住宅地です。これらのニュータウン内では、地区計画や建築協定等により建築物等の意匠や形態に対するルールが設けられ、まちなみが整った落ち着いた感じられる景観となっています。

○ニュータウンは計画的に開発されたこともあり、緑豊かな公園や緑地が多数整備され、またニュータウン内の街路は、6m以上の幅員を確保しているところがほとんどで、都市施設が整っています。

○一方、名古屋市、豊田市、半田市等の駅前等で、市街地再開発事業や土地区画整理事業等により形成されたまちなみでは、細街路が解消されたり、公園等の都市施設が計画的に配置されたりして、良好な生活環境が整えられています。



□ 桃花台ニュータウン（小牧市）



□ エバグリーン星ヶ丘（豊田市）

【問題点】

無秩序な開発による雑然とした住宅地の景観

□ 基盤整備が不十分な場所で、無秩序な宅地開発が進められることにより、一部の地域では、周囲の景観特性に調和しない雑然とした住宅地の景観が見られます。

モラルの低下によるごみ等の散乱

□ モラルの欠如による、ごみやタバコのポイ捨て、落書き等によって、誰もが気持ちよく利用したい道路や公園等の公共空間における景観や環境が悪化しています。

②昔ながらのまち

県内には、新しく形成された街がある一方で、戦災を免れた旧市街地や農山漁村地域での集落等が各所で見られます。

- 旧市街地等の多くは細街路で構成されています。その状況は城下町、街道沿いのまちなみでも多数見られます。これらのまちなみは、道路の両側に建つ建築物の軒先が幾重にも重なり、趣のある景観を呈しています。
- また、三河地域等の山村集落、尾張西部、西三河、知多地域等の農村集落、伊勢湾や三河湾等に面した沿岸部に見られる漁村集落等、昔ながらの生活環境が残るまちを県内の各所で見るすることができます。
- こうした地域では、地域のコミュニティが比較的保たれている場合が多く、地域固有の歴史や文化等が継承されている姿を祭り等に見ることができます。
- 山村や農村の集落では、里山等の豊かな緑が際立ち、また田畑等の農地の広がりや潤いと安らぎを与えています。
- 漁村では、細街路で構成されたまちなみが、地域コミュニティの強い結束等を感じさせる独特の景観を呈しています。



□旧市街地（半田市）



□山村集落（豊田市）



□農村集落（新城市）

【問題点】

消えつつあるまとまりの感じられる集落の景観

- 世代交代や価値観の多様化等により、集落内で調和を保ってきた伝統様式とは異なる、新しい形態・意匠の建築物に建替えられ、まとまりのあった景観が失われつつあります。

まちなみの景観と防災の両立

- 昔ながらのまちなみで見られる細街路は、沿道の建築物と相まって個性的な景観を呈している他、地域の祭りでは山車等が練り歩くルートになるなど、地域文化の継承に欠かせない存在です。しかし、災害時における避難路の確保や救助活動の円滑な実施等が問題となっているので、防災上の工夫が必要です。

③身近な文化

生活に密着した身近な文化には、神事や祭事等に関するものが多数見られます。

こうした文化は、地域の景観を支える貴重な資源として捉えることができます。

- 東栄町、設楽町、豊根村で開催される神事芸能の「花まつり」は、鎌倉・室町時代に山伏や修験者によって伝えられた 700 年余りの伝統をもつ奇祭で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。



□花まつり（東栄町、設楽町、豊根村）

- 一色町で開催される「大提灯まつり」は、400 年前、海魔退散を願って篝火（かがりび）を焚いたことが始まりとされるもので、愛知県の有形民俗文化財に指定されています。灯された火によって高さ 10m の大提灯に描かれた古色豊かな絵模様が幻想的に映し出され、多くの観光客を魅了しています。



□大提灯まつり（一色町）

- 県内に広く分布し、その数や種類、装飾の美しさ等有名な「山車(だし)まつり」があげられます。

山車の起源には諸説ありますが、多くが神を迎える神事として行われてきたと伝えられ、各地の歴史文化を彩る歳時記の一つに数えられます。この中でも、からくり人形による舞が演じられたり、精緻な彫刻や金糸銀糸の刺繍による大幕等で飾られたりした豪華な山車が、多数、まちなかを引き回される半田市の山車(だし)や、犬山市の車山(やま)が有名です。また、知立市にも山車の上で「知立からくり」や「知立山車文楽」が上演される「知立まつり」があり、この他にも、愛知県には、山車に関連したまつりが、常滑市、東海市、蒲郡市、津島市等の多くの地域で見られます。



□山車まつり（半田市）

【問題点】

失われていくまちの彩り

- 地域の歴史文化に支えられてきた祭りは、今なお受け継がれ、地域の季節を彩る風物詩となっています。しかし、正月、端午の節句、七夕、彼岸等の日本古来の伝統行事(身近な文化)が行われることが少なくなり、季節毎に見られたまちの彩りが失われつつあります。

(4) 産業

① 交通

愛知県では、古くから政治や産業経済等を支える交通網が整備され、東西交通の要衝として発展してきました。

○国道 1 号は、江戸時代の五街道の一つである東海道を受け継いで整備されたものであり、豊橋、岡崎、名古屋等の城下町を経由する主要道路の一つとなっています。また国道 23 号も、県内外の産業を支える主要道路の一つです。

○これらの他に、名古屋市内を起点に北へ伸びる国道 19 号、国道 22 号、国道 41 号があり、それぞれ県内の主要道路として位置づけることができます。なお、県内には、これらを含めて合計 21 路線の国道があります。

○愛知県では東西を繋ぐ交通の要衝として大量の交通需要に応えるため、主要道路の拡幅整備やバイパス整備、さらには高速道路の新設等が進められています。

○戦災復興により整備された久屋大通や若宮大通は、幅員の広さから通称 100m 道路と呼ばれる道路で、特に久屋大通は、緑豊かな街路樹が沿道の商業施設等の建築物と調和し、まちなみに潤いと安らぎを創出しています。

○高速道路等については、日本の骨格的な道路である東名・名神高速道路をはじめ、名古屋港を横断する伊勢湾岸道路、中央自動車道、東海北陸自動車道、知多半島道路、知多横断道路、南知多道路、東海環状自動車道等があります。特に知多半島道路および知多横断道路(セントレアライン)は、中部国際空港(セントレア)と名古屋市およびその周辺都市を結ぶ国際的な玄関口となる道路であり、重要な路線の一つです。

○鉄道では、日本の動脈としての機能を持つ J R 東海道新幹線が、県内を東西に走り、関東や近畿を繋ぐ広域交通としての役割を担っています。

○密集した市街地の中や田園風景の中を走る J R 東海や名古屋鉄道等の各路線は、県内および県外の主要な都市を結ぶ重要な公共交通機関です。



□名古屋高速道路（名古屋市）



□中部国際空港（常滑市）



□東部丘陵線(通称：リニモ)（長久手町）
写真提供：愛知高速交通株式会社

- 近年、名古屋市営地下鉄の環状線化、愛知万博のアクセスとして活躍した東部丘陵線(通称リニモ)の開通等、鉄道の整備が進められ、県民の足として大きな役割を果たしています。
- 名古屋港や三河港は、国内外の大型貨物船の往来が頻繁に見られ、「モノづくり愛知」と世界を繋ぐ拠点として位置づけることができます。名古屋港では、水族館をはじめとしたレジャー施設の集積により、賑わいと活気が感じられる港としての景観も特徴的です。
- 中部国際空港(セントレア)は、世界に開かれた交通の結節点として、周囲の景観に大きな影響を及ぼす景観資源の一つとなっています。
- 県営名古屋空港は、国内の地方都市とを結ぶ身近で便利な通勤路線の就航を中心に再整備されています。これまでと同様に、ビジネスや旅行のための中部の玄関口であり、景観資源の一つとなっています。

【問題点】**魅力ある景観を阻害する屋外広告物**

- 郊外の幹線道路沿道に設置された屋外広告物(野立て看板)は、周囲に広がる美しい山並みや田園の景観を遮っています。また、こうした屋外広告物に気が取られ、交通信号や道路標識等を見落としやすくなるなどの、安全な交通の障害となっています。

まちなみに調和しない沿道の建築物

- 周囲のまちなみ景観に対して調和しない、派手な色彩の建築物や工作物が一部の沿道で見られます。

雑然とした駅周辺の景観

- 地域の賑わいのシンボルとなるべき鉄道駅およびその周辺では、派手な屋外広告物が設置され、雑然とした景観が一部で見られます。

②工、商、農業

愛知県は、自動車関連産業を中心に工業が発展していますが、全国第5位の産出額を誇る農業や、年間商品販売額が東京都や大阪府に次いで全国第3位である商業とのバランスの取れた県です。また、水産業は、総生産額は全国的には中位ですが、あさり、がざみ、とらふぐ、しゃこが全国第1位のほか、くるまえび、養殖うなぎ等、全国上位を占める魚種が多くあります。さらに、木材・同製品出荷額が全国第1位であり、全国屈指の木材産業県でもあります。

こうした豊かな産業を育んできた背景には、古くから窯業、醸造業、繊維業、瓦製造業、石材加工業等の様々な伝統産業や地場産業が盛んに営まれてきたことも影響していると考えられます。

- 工業では、豊田市、刈谷市、岡崎市等での自動車産業を中心とする内陸工業地帯があるほか、名古屋港や衣浦港、三河港の臨海工業地帯があり、多くの工場が立地しています。これらの地域に見られる工場群では、工場敷地の周りに緑豊かな木々が植えられています。また工場の建築物においても、形態・意匠等を周囲の景観と調和するよう配慮した取組みが一部で見られます。



□工場（豊田市）

- 農業は、温暖な気候や豊かな水資源等により、キャベツ、しそ、トマト、温室みかん、菊、洋らん、バラ等、全国屈指の生産量を誇っています。



□電照菊（田原市）

- 田原市の菊の生産をはじめとした、愛知県の花きの産出額は、昭和37年以降日本一です。花きは、温室やビニールハウス等の施設栽培が主流です。特に渥美半島では温暖な気候を利用した電照菊の生産が盛んで、電気を灯したビニールハウスの夜景が特徴的な景観の一つとなっています。

- 濃尾平野や岡崎平野等を中心に稲作が盛んで、春から夏にかけて水田一面に青々とした清々しい風景が広がり、秋には頭を垂れた実り豊かな稲穂によって黄金色の風景が広がります。

- これらの他にも、稲沢の苗木の栽培や、弥富の金魚の養殖等が、その地域の景観を特色あるものになっています。

- 商業では、名古屋駅周辺を見ると、名古屋駅周辺のランドマークとなっているJRセントラルタワーズの建設



□JRセントラルタワーズ（名古屋市）

等をきっかけに、超高層ビルの建設計画が複数進められており、愛知の新しい顔として県内外から大きな注目と期待が寄せられています。

○また栄地区周辺では、複数の由緒ある百貨店が立地する中、近年、外資系のブランドショップが路面店として参入するなど、愛知を代表する商業地域に新しい景観が形成されつつあります。

○郊外では、主要道路の沿道に飲食店や衣料、雑貨等を扱うロードサイドショップが建ち並び、派手な色彩の建築物や屋外広告物等が目立ちます。また、大規模ショッピングセンターが建ち、周囲のまちなみとの調和を欠いたものも見られます。

○愛知県のような産業の礎となっているものに、伝統産業や地場産業があげられます。

○特に窯業は、瀬戸や常滑等が代表的な地域で、やきものを用いて整備された散策道やのぼり窯等が景観資源となっています。

○醸造業では、半田の酒蔵や岡崎の味噌蔵が一般開放されるなど、地域の財産を生かしたまちづくりが積極的に行われています。

○尾張藩の保護政策により発達した有松や鳴海の木綿しぼりは、現在、地域を代表する地場産業となり、長年利用されてきた工場や店舗等が歴史的な趣を醸し出しています。



□酒の文化館（半田市）

【問題点】

周囲の景観に調和しない工場

□大規模な工場でも、敷地内の緑化が不十分であることや、周囲に設置された高い塀等により、周囲の景観に圧迫感を与えているものが見られます。また、市街地に立地する小規模な工場では、工場全体が美しく保たれずに、まちの景観阻害要因となっているものが見られます。

十分な活用が行われていない景観資源

□窯業、染色業、醸造業をはじめとする伝統産業や地場産業は、地域の景観特性を豊かに彩り、地域活性化につながる有効な資源として、さらに活用していく可能性が残されています。